

# 『日本の現場発看護学』の構築を 目指した事例研究方法の開発

山本則子<sup>1</sup>, 池田真理<sup>1</sup>, 高井ゆかり<sup>1</sup>, 村山陵子<sup>1</sup>, 辻村真由子<sup>2</sup>,  
山花令子<sup>1</sup>, 斎藤凡<sup>3</sup>, 野口麻衣子<sup>1</sup>, 上別府圭子<sup>1</sup>

1) 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻

2) 千葉大学大学院看護学研究科

3) 東京大学医学部附属病院

# この交流集会の目的

1. 今回形成しつつある事例研究方法のアウトラインを報告する。
2. このようなまとめの基盤となった進行中の事例研究の一つの経過を報告する。
3. 研究者・実践者間の共同研究実施上の困難・課題・発見についてまとめる。
4. 看護学の構築に資する看護の事例研究の方法について会場の皆様と意見交換する。

# 交流集会の流れ

時間	内容	
11:00~11:30	プロジェクト概要と 事例研究の説明	山本・野口
11:30~11:45	ディスカッション	司会:山本 会場の皆様 研究メンバー
11:45~11:50	まとめ	
11:50~12:00	アンケート回収・撤収	

# 基本的な問題意識

- 看護学の知 とは何か
  - 看護の対象を理解するための知
  - 看護を提供することの知
- 経験知 の 形式知化
- 質的研究がどのように看護学の知の構築に役立つか
  - グラウンデッド・セオリー の長所と短所
  - 現象学 の長所と短所
  - 事例研究 の長所と短所
- 形式知 に結び付く事例研究

# 事例研究の定義

1. いま生起している現象を、その実際**生活上の文脈**から調査する研究方法 (Yin, 1996)
2. あるひとつの事例や現象や社会的単位に関する、集約的、**全体論的**記述と分析... 特定の事柄に関する、記述的、**発見的**な分析 (Merriam, 2004)
3. **実践的**研究 (波多野、1970)

⇒ **事例からの学び**次に活かしたい

⇒ **事例検討とは異なる事例研究**

# 事例研究と事例検討（ケースカンファレンス） の共通点と相違点

	事例研究	事例検討 （ケースカンファレンス）
対象	（一応）終了事例	続行中の利用者
目的1	看護の可視化・共有	問題解決
目的2	看護実践の意味・効果的実践のための戦略の意識化	問題解決のための思考過程の教育・気づきの促し
目的3	より多くの看護師を元気に・より良い実践を皆で実践	
方法	事例に起きていることに関する詳細な検討と言語化 （のための対話）	

# 質的研究の手法を活用した 事例研究の試み

- グラウンデッド・セオリー法からの  
「言語化」「概念化」「理論化」
- 現象学的アプローチからの  
「主観的経験の現れ方に関する理解」  
「対話による理解の深まり」
- 当事者研究からの  
「自分たちの経験を対象化して理解する」

# 「日本の現場発看護学」の構築を 目指した事例研究方法の開発

研究代表者山本則子

## 背景:

- これまで事例研究での学びは、詳細な記述にとどまり、まとまった学問体系にしてゆくことが困難だった。
- 実践者と研究者が共同で、質的研究の手法を活用した事例研究を実施し、その経験から看護学発展のための新しい研究方法の確立を試みる。

## 目的:

- 看護学の特性を踏まえた新たな研究方法の開発
- 看護実践者と研究者が共同で事例研究論文を完成し、その経験から日本の看護学のための汎用可能な事例研究プロトコールの作成を試みる

# 事例研究の研究

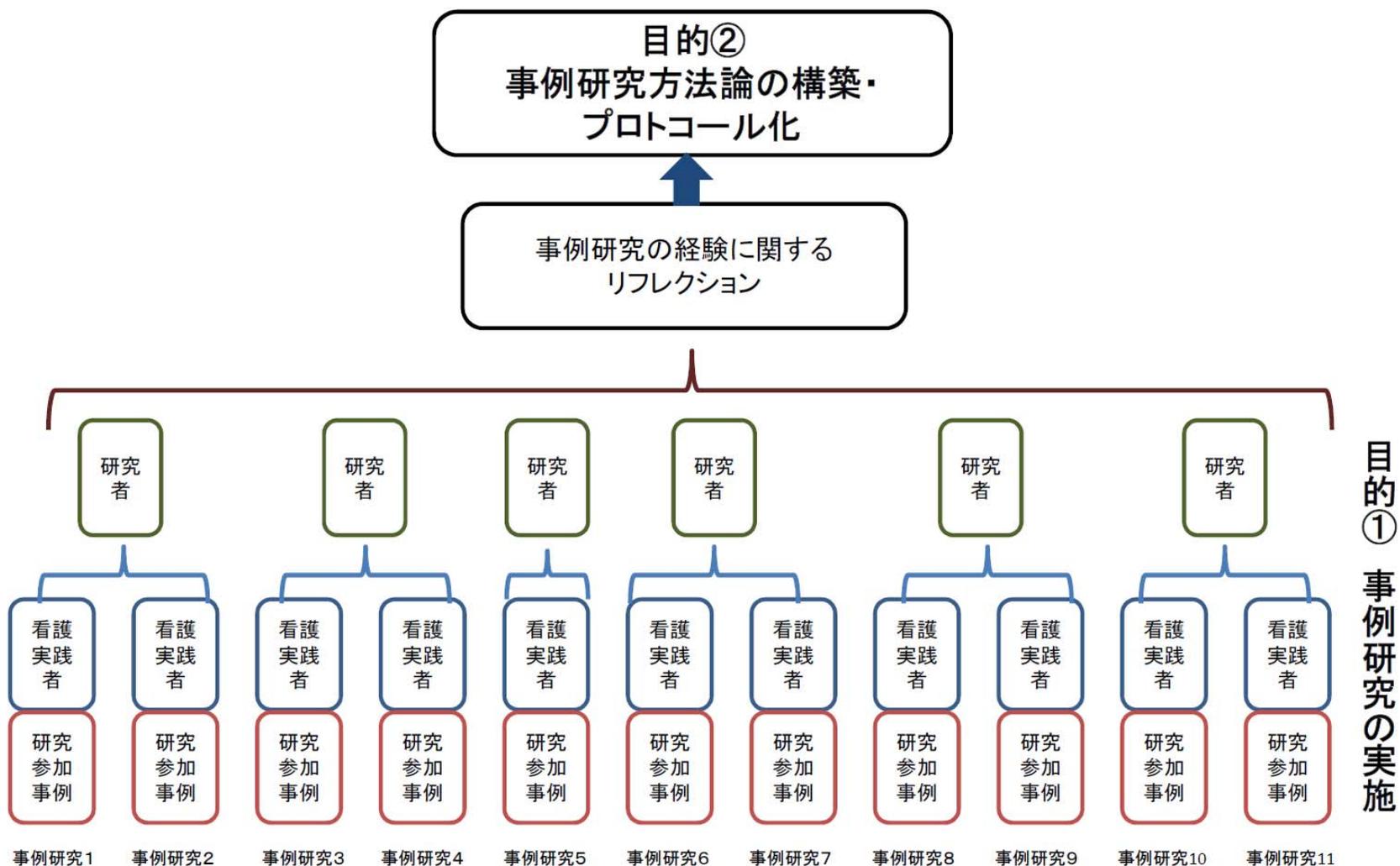
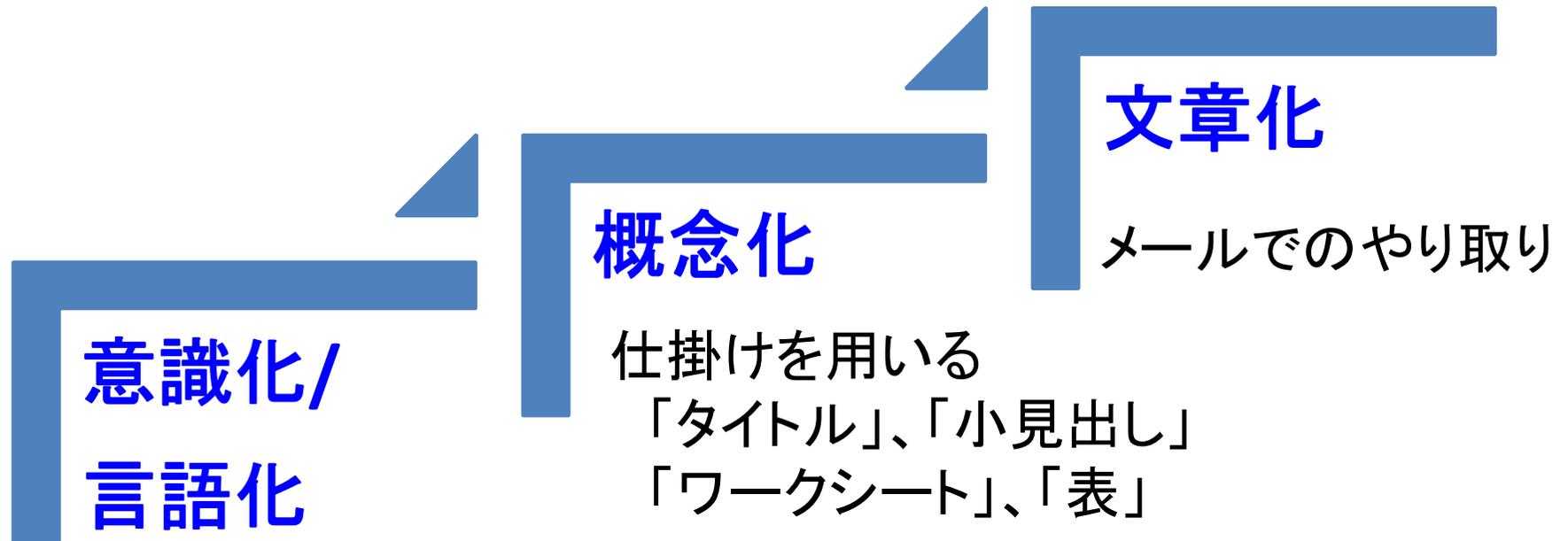


図1 研究の枠組み

# 一つの事例研究の経過紹介



# 事例研究を進めていく上で学びつつあること 意識化/言語化・概念化・文章化のハードル



事例に関する「語り合い」

- 行為の「意味づけ(どのような意図で何をしたか)」

事例から学んだこと(教訓)のリスト化

# ワークシート

事例研究 ワークシート ver.2.0 (07/05/2014)

事例 (イニシャル) さん ( ) 歳 (男性・女性)

どうしてこの事例を紹介しようと思ったか(タイトルへの第一歩):

事例を取りあげた理由

事例の概要:

事例の概要

事例の経過と看護実践

	前期	中期	後期
利用者・家族の状況			
看護師が考えたこと			
実践内容 ①思いのまま書き出す。 ②その行為の意図・目標・ゴールを考える。 ③意図・目標・ゴールごとにまとめる。			
実践の意図・意味ごとに、見出しをつけて並べる	* * *	* * *	* * *

おおまかな時期(前期・中期・後期)ごとに以下の点を書き出す

- 利用者・家族の状況
- 看護師が考えたこと
- 実践内容
- 実践の意図・意味ごとに見出しをつける(←ここは難しい)

事例の教訓(事例から学んだこと):

事例の教訓(事例から学んだこと)

# 表

表1 事例の経過				
退院からの時間の経過		A. 退院～	B. 退院後 (1週間～)	C. 退院後 (2週間～)
利用者・家族の様子と看護実践の категория		時期ごとに家族の言葉と様子をまとめる		
家族の言葉と様子				
カテゴリ		その時期ごとに行われた具体的な実践をカテゴリ毎に挙げる		

# 事例研究のプロトコル化を目指して

- 試行錯誤を繰り返し、複数の事例研究を進めている。
- ワークシート・語り合い・表の活用が、看護師の意識化・言語化・概念化・文章化に役立つことがわかりつつある。
- 事例研究を進める中で、プロトコル(案)を検討中である。



図. 事例研究のプロトコル(案)

# ディスカッションポイント

- 事例研究の protocol
- 事例研究の困難・課題に対する対応方法
- 事例研究を現場に根付かせるために